

APU

立命館アジア太平洋大学



Ritsumeikan Asia Pacific University

PROGRESS REPORT

立命館アジア太平洋大学 プロGRESS・レポート
[2004年・夏号]

特集： APU開学四年のご報告とご意見を承る会
第1期生の就職先・第2期生の内定・内々定状況報告
九州発アジア人材育成フォーラム



巻 頭 言

駐日スリランカ民主社会主義共和国特命全権大使

カルナティラカ アムヌガマ



Karunatilaka Amunugama

立命館アジア太平洋大学（APU）は、新世紀における世界市民と国々との間の、自由・平和・ヒューマンイズム、相互理解を促進するというビジョンをもって設立されました。2000年4月の開学以来、スリランカがAPUと親しい交流を続けてきたことを嬉しく思います。APU創設の土台になった原則は世界共通の理念であり、グローバル社会に生きる私たちが、その理念を分かち合ってきたことは喜ばしいことです。一方、その理念は、常に変化し続ける世界秩序に対峙し、新たな到達点をも目指さなければなりません。

今日私たちは、グローバル市場とデジタル革命を通じて、瞬時に一体化する世界に住んでいます。国内外の境界はそれに代わる新しい構造が現れるかのように、急速に姿を消しています。テロ、核拡散、大量破壊兵器といった今までにない脅威が新世界秩序を脅かしています。国民国家という定義そのものが、単に地理的場所ではなく、人々のグループまたは共同体を示すよう見直しを迫られています。

変化を遂げ、また変化を迫られてもいる世界において、世界市民としての私たちは新たな構造を発達させなければなりません。それは、世界平和、自由そして安全を脅かす新たな脅威と戦い、若い世代に未来を残すためなのです。変化する世界秩序の中で、教育における従来の教室の概念や教えること学ぶことも、改造、置換されなければなりません。これは古い物の考え方を捨てる過程と、規制の枠を越えるかつてない概念上の構造革命とも関係してきます。

スリランカでは、学識者たちが中等学校や大学レベルで、そのような画期的な教育構造を発展させる必要性を認識しました。私たちは理論より実践に重点が置かれた新カリキュラムの導入が、次世代の労働倫理や姿勢に好ましい変化をもたらすと考えています。今日スリランカは、国家建設における重要な段階にあります。私たちはたとえ遅くても、そのような思考や学びの新しいモデルは、私たちの国やアジア地域の未来の暮らしに必須のものと認識しています。

私たちアジア人は、未来を築く上で確固として豊かな礎となる歴史的文化遺産を、おろそかにする傾向があります。私たちはこの共有財産を礎として未来を築き、アジア近隣諸国との絆を強めるべきです。私たちはアジア人として平和を築き、維持し話し合うことへの従来の取り組みを見直し、長期にわたって継続が可能な協力的でグローバルな関係を発展させる必要があります。現代の世界の対立の本質を理解し、それを予防するための政治を発展させることは極めて重要です。異文化間コミュニケーションもまたそのようなプログラムに不可欠な要素です。

様々な教授法があるのと同じように、リサーチの方法も多岐にわたります。慣習的なリサーチの概念は広く出版物と結びついていますが、リサーチモデルの適用範囲は、学問主導の創造的なリサーチの成果を統合するものにも含めることができます。熱心な若い卒業生はリサーチ活動に携わることで、意義深い役割を果たすことができます。そのリサーチ活動とは、理論を訓練につなげ、リサーチを行動につなげる、マイクロレベル分析とマクロレベル分析を兼ね備えた多面的なアプローチを通じて、彼らの実践技術と批判的分析力の両方を向上させるためのものです。

学問機関としてAPUは、新しい世界とその変化する社会的必要性への挑戦に立ち向かって、理論的そして分析的によく適合した人材を開発することに秀でています。APUのような学問機関で育成されている若者の貢献で、未来は現在よりよくなると私は信じています。責任感のある自主的な世界市民を作る努力に対し、APUを称えます。

キヤノン株式会社 代表取締役社長

御手洗 富士夫



MITARAI Fujio

平等から公平への価値観の転換

日本は今、変革の真っ只中にあります。

政治、経済、教育等々あらゆる側面で、戦後築き上げてきたシステムが半世紀余りを経過してあちこちで制度疲労を起こし、所期の機能を発揮し得なくなっているからです。構造改革、規制緩和など、変革に向けた動きが数多く見られますが、なかなか効果が現れないのも事実です。

私は、物事を変えるには、まず初めに考え方を変えることが大切であると考え、企業経営の中で実践してきました。例えば、「売上優先から利益優先に」、「部分最適から全体最適に」というように新たな価値観を提示して全社員の意識改革を図り、その上で新たな価値観に相応しいシステムを導入して経営を刷新し、企業価値を向上させてきました。

同じことが日本社会の変革にも言えるのではないのでしょうか。

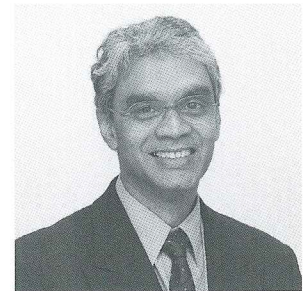
戦後、廃墟の中から復興を目指してきた日本の価値観は「平等」でした。そのことは例えば護送船団方式や年功序列といった「非競争」の原理に基づくシステムに具現化されて効果を発揮し、日本は高度経済成長を果たし国民は豊かになりました。

しかし、時代はすでに変わりました。1989年のベルリンの壁崩壊以降、世界は一気にグローバリゼーションの時代を迎え、日本もその荒波に揉まれて「内なる国際化」を迫られています。グローバリゼーションの原理は言うまでもなく「競争」であり、その価値観は「公平」です。日本は、21世紀に相応しい「平等から公平への価値観の転換」を図り、新しい価値観に基づいて社会の様々なシステムを再構築することが求められています。

この観点から立命館アジア太平洋大学は、4千人強の学生の内42%が世界72カ国・地域からの留学生で構成されているように、日本の内なる国際化の先端を走る大変ユニークな実践の場です。今春には早くも第一期生が卒業を迎え、前途有為な人材が産業界を中心に各界へ羽ばたいていきました。この先も、世界に通用する新しい価値観を身に付けた次世代のリーダーが、続々と巣立っていくことを、私は心より願って止みません。

ごあいさつ

立命館アジア太平洋大学学長
モンテ・カセム



Monte CASSIM

2004年4月より、立命館アジア太平洋大学（APU）の学長に就任いたしました、モンテ・カセムでございます。2000年4月に開学したAPUは、開学5年目を迎えることができました。現在APUでは、多くの学生が勉学に励むとともに、課外活動や地域との交流に取り組んでおります。そして、この3月に卒業した第一期生は、国際学生で100%、全体で95%の就職実績を残すことができました。

考えてみますと、当初、大学としての実績がなかったにも関わらず、APUの構想に賛同し、支え、暖かく見守ってくださったのは、アドバイザリー・コミッティの皆様、そして地域の皆様です。改めてお礼申し上げます。

私たちは引き続き、卒業生やこれからAPUで学ぶ学生が、今後展開するアジア太平洋の政治・経済・技術などの多方面で世界を誘導するリーダーになるよう、一人ひとりを大切に教育を行ってまいります。

21世紀は、変動の激しい世の中です。この時代を生き抜いていくには、的確な判断力と適応能力が求められます。APUでは、日本にいながらにして、日本人学生が世界72カ国・地域から来ている国際学生と19カ国・地域から来ている教員との交流ができます。学生の適応能力を生み出していくのは、APUの構成メンバーである学生・教職員であります。この多様性の中から出てくるアイデアと発想をきちんと実行できるための学力をつけることは、APUの使命であると考えています。21世紀を創造の世紀として名づけるようなリーダー達が、APUから出ればと思っています。

私が来日した1970年代初め、日本は高度経済成長のまっただ中でした。私の大学院での研究対象は都市工学でしたが、高度経済成長を続ける日本で生活する中で、その発展の秘密がどこにあるのか、大変興味を持ちました。そのため研究分野は、建築から日本の経済発展や産業開発そのものにまで広がり、また環境が一人の人間に与える影響の大きさを実感し、それに対応する使命を感じました。

今後APUが目指していく学生像としては、「教学・課外を通して身につける多様性」「国内外での教学活動・課外活動を行う中で、学生同士が友情を築く」ことなどが考えられます。APUの学生が世界の秩序づくりに関わる実感を得ることができるよう、10月には、世界の秩序を議論し、国際社会における行動指針を策定する国際専門家会議を国連大学と共同で、APUで開催する予定です。大学での教学活動、課外や地域での活動、国際会議などの経験が、学生に与える影響は大きなものがあります。そしてこのことは、今後、世の中の新たな発想を生み出す原動力となると信じております。

今後とも、アドバイザリー・コミッティの皆様の変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

新役職者紹介

学長補佐
甲賀 光秀



KOHGA Mitsuhide

皆様のご理解を得まして、おかげさまで完成年度を迎えることができ、カセム学長を中心とする新たな執行部が着任いたしました。

標高338メートルのAPUキャンパスにせまる山並みは緑がまぶしく、別府湾から四国の三崎が遠く眺望できる立地は、アジア太平洋の広大さを容易に想わせるものです。ここに世界の72の国・地域から来た国際学生と国内学生が学んでいます。彼・彼女らは生い立ちや出身地がただ違うだけでなく、その違いをいっそう増幅するように、言語も文化も、宗教的なバックグラウンドも皮膚の色も、食事のテーストについても多様なわけです。ここはまるで日本ではなく、世界の注目が集まる生き生きとした小上海の様であります。

混沌ではなく、豊かな学識を修得する刺戟に満ちたアリーナであり、世界からの学生それぞれにとって互いに他は違うことを認識しあるがまま受容すること、それに寛容たりうる環境、何か共通の 이슈ーの処理のためにはその差異を至極当たり前の前提として、共通のルールを形成しながら一つ一つを解決していく以外に仕方がない環境です。

いま、特に東南と北東のアジアの地域では、EUやNAFTAの流れの中で、地域共同体の形成に向かったの胎動が始まりだしているように見えます。日本のほうが戦前のこともあり、しり込みしているのではないかと思うくらいASEANの熱意を感じます。やがてアジアで、EUのように50年もかけずにもっと早く地域共同体ができる可能性が生まれています。そのころにはAPUのアルムナイの彼や彼女が、その地域共同体の中でAPUで経験したような共通の 이슈ーについてルールを形成しながら、解決のために汗を流しているかもしれません。侃々諤々のあとのパーティの席はまるでAPUの同窓会のようなものであることになってほしいと願っています。

小成に安んじずに、こういう姿の実現に向かって、さらに挑戦をつづけたいと強く思うようになりました。今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。

以下、4名の副学長をご紹介します。



副学長
林 堅太郎
HAYASHI Kentaro



副学長
薬師寺 公夫
YAKUSHIJI Kimio



副学長
仲上 健一
NAKAGAMI Ken'ichi



副学長
西田 宗旦
NISHIDA Muneaki

[特集1] APU開学四年のご報告とご意見を承る会



立命館アジア太平洋大学「開学四年のご報告とご意見を承る会」が、3月2日の東京会場を皮切りに、9日大阪会場、18日福岡会場で開催されました。

2000年4月に開学したAPUは、2004年3月に第一期卒業生を送り出すのを機に、開学前から様々な形でご支援ご指導をいただいているアドバイザリー・コミッティの皆様にご臨席賜り、大学側から4年間の成果をご報告し、更なるご支援とAPUに対するご助言をいただくために、会を催したものです。

会には大変ご多忙の中、東京会場では47名、大阪会場では26名、福岡会場では20名の、アドバイザリー・コミッティの皆様にご出席賜り、東京会場では平松守彦前大分県知事、大阪会場では小林庄一郎関西電力株式会社顧問からご挨拶をいただきました。

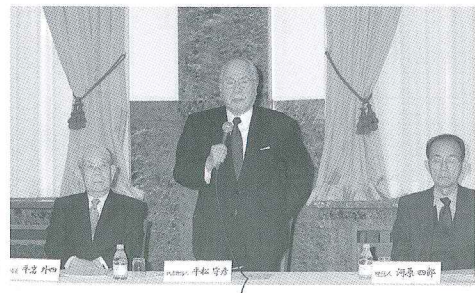
会では坂本和一前学長（4月より立命館副総長・立命館大学副学長）から、APUの4年間の取り組みと成果などが報告され、「刺激的な教育システムの採用が、日本人学生の勉学態度を変えつつあります。次の十年で、世界中の学生の交流拠点としてのAPUを創っていききたいと思います」と、述べました。その後、委員の皆様からご意見、ご提言をいただきました。

続いて、各会場で学生代表がお礼の言葉を述べたほか、モンテ・カセム新学長や新役職者が紹介され、会の最後には「社会的・歴史的役割を果たすために、引き続き努力して参りたい」と、川本八郎立命館理事長が謝辞を述べました。

東京会場 3月2日(火) 於：日本工業倶楽部会館

Program

- 学園代表あいさつ 学校法人立命館総長 長田豊臣
- 代表世話人ごあいさつ 平松守彦 前大分県知事
- 立命館アジア太平洋大学に関する報告 APU前学長 坂本和一
- 委員各位からのご提言 VADHANAKOVINT Pichaya (APS卒業、タイ、アサヒビール株式会社)
- 学生代表のあいさつ 井上大輔 (APM卒業、日本、富士ゼロックス株式会社)
- APU新役職者の紹介 APU新学長 モンテ・カセム
- APU新学長あいさつ 学校法人立命館理事長 川本八郎
- 謝辞
- ご昼食・懇談会



The state of APU after four years in operation

ご出席いただいたアドバイザー・コミッティ・メンバー

- | | | | |
|---------|---|-----------|---------------------------------------|
| 平岩 外四 様 | 東京電力株式会社 顧問 | 佐々木 元 様 | 日本電気株式会社 代表取締役会長 |
| 平松 守彦 様 | 前大分県知事 | 柴田 寛二 様 | 株式会社山下設計 特別顧問 |
| 河原 四郎 様 | 大同生命保険株式会社 元代表取締役会長 | 瀬戸 雄三 様 | アサヒビール株式会社 相談役 |
| 末松 謙一 様 | 株式会社三井住友銀行 名誉顧問 | 田尻 英幹 様 | 西部瓦斯株式会社 取締役相談役 |
| 西島 安則 様 | 京都市立芸術大学学長、元京都大学総長 | 垂水 公正 様 | 財団法人日本フォスター・プラン協会 会長・理事長、元アジア開発銀行総裁 |
| 明石 康 様 | 日本紛争予防センター 会長、元国際連合事務次長 | 鳥飼 一俊 様 | 株式会社熊谷組 取締役社長 |
| 秋山 富一 様 | 住友商事株式会社 相談役 | 内藤 明人 様 | リンナイ株式会社 取締役会長 |
| 磯邊 律男 様 | 株式会社博報堂 相談役 | 島山 襄 様 | 財団法人国際経済交流財団 会長、日本貿易振興機構 元理事長 |
| 稲葉 興作 様 | 石川島播磨重工業株式会社 相談役 | 早崎 博 様 | 住友信託銀行株式会社 特別顧問 |
| 稲村 一弘 様 | 三井住友建設株式会社 特別顧問 | 平島 治 様 | 大成建設株式会社 代表取締役会長 |
| 枝村 純郎 様 | 住友商事株式会社 顧問、元駐インドネシア共和国特命全権大使、元駐ロシア連邦特命全権大使 | 藤田 弘道 様 | 凸版印刷株式会社 代表取締役会長 (人事部長 大久保 伸一 様) |
| 大賀 典雄 様 | ソニー株式会社 名誉会長 (ソニーブロードバンドソリューション株式会社 教育官公庁営業部 統括部長 古郡 憲明 様) | 藤村 正哉 様 | 三菱マテリアル株式会社 相談役 |
| 大河原良雄 様 | 元駐米大使、財団法人世界平和研究所 理事長、財団法人国際協力推進協会 理事長、財団法人ワイ・エフ・ユウ日本国際交流財団 理事長、社団法人日米協会 会長 | 古田 武 様 | 鐘淵化学工業株式会社 代表取締役会長 |
| 大木 和雄 様 | 日鉱金属株式会社 代表取締役社長 | マークデュレイ 様 | アデコ株式会社 代表取締役会長 |
| 大澤 弘之 様 | 財団法人リモート・センシング技術センター 理事長、前科学技術会議議員、元科学技術事務次官 | 前田勝之助 様 | 東レ株式会社 代表取締役会長 (代表取締役副社長 富坂 和夫 様) |
| 大竹 美喜 様 | アメリカンファミリー生命保険会社 創業者・最高顧問 | 前田 靖治 様 | 前田建設工業株式会社 代表取締役社長 |
| 岡崎 真雄 様 | ニッセイ同和損害保険株式会社 代表取締役会長 | 三重野 康 様 | 日本銀行 元総裁 |
| 岡部敬一郎 様 | コスモ石油株式会社 代表取締役会長兼社長 (取締役人事部長 高谷 忍 様) | 水口 弘一 様 | 中小企業金融公庫 総裁 |
| 加藤 久郎 様 | 戸田建設株式会社 代表取締役社長 | 宮村 眞平 様 | 三井金属鉱業株式会社 代表取締役会長兼CEO (秘書室長 泥谷 辰夫 様) |
| 北岡 隆 様 | 三菱電機株式会社 相談役 | 村田誠四郎 様 | 丸善株式会社 代表取締役社長 |
| 河野 俊二 様 | 東京海上火災保険株式会社 相談役 | 森 金次郎 様 | 日本税理士会連合会 会長 |
| 近藤 晃 様 | 株式会社日本航空システム 常任顧問 | 諸橋 晋六 様 | 三菱商事株式会社 相談役 (地域総括部国内チーム 藤森 荘吉 様) |
| | | 安武 史郎 様 | 日商岩井株式会社 特別顧問 |
| | | 山本 卓真 様 | 富士通株式会社 名誉会長 |
| | | 渡辺 修 様 | 日本貿易振興機構 理事長 |
- 以上47名 役職は開催時のもの、〔 〕は代理の方

ACの声

水口 弘一 様

中小企業金融公庫 総裁

Voice

APUは私立大学ベンチャーを見事に成功させたと共感を持っています。ただ、私の経験から申し上げて、どのような優良企業でも必ず悪い時が来ます。民間の会社の場合、死命を決するのは、製品の質とマーケットをいかに先取りするかの先見性です。APUの教育システム、学生の取り組みを伺っていると、そのあたりは十分に出来ているという感じがします。

ニューチャレンジで、ますますの発展を期待しています。

卒業生の声

VADHANAKOVINT Pichaya

APS卒業、タイ、アサヒビール株式会社

Voice

アドバイザー・コミッティの皆様にお会いし、挨拶の機会をいただいたことに感謝いたします。

私は、3年前に日本語が全く分からない状況で日本にきました。私には、アジアを経済的にも文化的にも発展させたいという夢があります。その夢を実現させるため、日本文化や言葉を勉強しました。アサヒビールから内定をもらったときに、大きな夢の第1歩を踏み出せた喜びで感動しました。アサヒビールの、一番元氣な社員として挑戦し続けたいと思っています。

私はタイ人であると同時にアジア人です。日本人と同じ、アジア人です。「アジアが変わると世界が変わる」と信じています。

大阪会場 3月9日(火) 於：クラブ関西

Program

- 学園代表あいさつ 学校法人立命館総長 長田豊臣
- 代表世話人ごあいさつ 小林庄一郎 関西電力株式会社顧問
- 立命館アジア太平洋大学に関する報告 APU前学長 坂本和一
- 委員各位からのご提言
- 学生代表のあいさつ 大山高 (APM卒業、日本、三洋電機株式会社)
YUAN Zhe (APM卒業、中国、シャープ株式会社)
- APU新役職者の紹介
- APU新学長あいさつ APU新学長 モンテ・カセム
- 謝 辞 学校法人立命館理事長 川本八郎
- ご昼食・懇談会



ご出席いただいたアドバイザー・コミッティ・メンバー

青戸 紘 様 株式会社川島織物 取締役社長〔常務取締役 奥野 信三 様〕	小林庄一郎 様 関西電力株式会社 顧問
秋元 満 様 株式会社京都銀行 相談役	柴田 稔 様 東洋紡績株式会社 取締役会長
荒巻 恭士 様 株式会社きんでん 相談役	寿栄松憲昭 様 日本電池株式会社 相談役
井植 敏 様 三洋電機株式会社 代表取締役会長兼CEO〔人事ユニット マネージャー 岡本 浩之 様〕	高橋宗治郎 様 株式会社滋賀銀行 取締役会長
五十嵐 力 様 株式会社栗本鐵工所 名誉顧問	田嶋 英雄 様 コニカミノルタホールディングス株式会社 名誉顧問
井上 礼之 様 ダイキン工業株式会社 取締役会長兼CEO〔人事部長 田辺 貞夫 様〕	田代 和 様 近畿日本鉄道株式会社 相談役
井口 武雄 様 三井住友海上火災保険株式会社 会長・CEO〔京都法人部長 千葉 泰雄 様〕	立石 義雄 様 オムロン株式会社 代表取締役会長〔人材開発部部長 宮崎 敬一 様〕
梅田 貞夫 様 鹿島建設株式会社 代表取締役社長〔関西支店副支店長 勝部 安之 様〕	辻 晴雄 様 シャープ株式会社 相談役
大西 正文 様 大阪ガス株式会社 特別顧問	土橋 芳邦 様 株式会社クボタ 相談役
川上 哲郎 様 住友電気工業株式会社 相談役	松下 正治 様 松下電器産業株式会社 取締役相談役名誉会長〔社会文化グ ループマネージャー 松本 耕司 様〕
木田 宏 様 財団法人新国立劇場運営財団 顧問、元文部事務次官	三田 勝茂 様 株式会社日立製作所 相談役〔執行役常務関西支社長 塚田 貴 様〕
金馬 昭郎 様 京阪電気鉄道株式会社 取締役相談役	道端 進 様 京都中央信用金庫 会長
鴻池 一季 様 株式会社鴻池組 取締役会長	山中 諄 様 南海電気鉄道株式会社 代表取締役社長
	以上26名 役職は開催時のもの、〔 〕は代理の方

A C の 声

小林 庄一郎 様

関西電力株式会社 顧問

Voice

APUが開学するにあたって、「アジア太平洋学」の創造という高い志に共感しましたが、学生の半数が外国人という我が国初の試みに戸惑いがあったことも事実です。しかし折にふれAPUの状況を聞き、その成長と発展を確認するにいたりました。

卒業生の声

大山 高

APM卒業、日本、三洋電機株式会社

Voice

アドバイザー・コミッティの皆様の前で、ご挨拶させていただくことを大変誇りに思います。

様々な言語、異なった文化が混在するAPUでは、毎日がチャレンジの連続でした。その中でも「三洋電機グローバルインターンシップ」で世界各国からやってきた学生たちとともに、インターンシップを経験したことは、地域社会の発展に三洋電機が積極的に貢献していることを知る良い機会になりました。

「地域社会」と「国際交流」において企業が果たす役割や重要性。まさにAPUで学び、体験してきたことを存分に発揮できる最高の機会でした。

今後APUで学んだ「日本人としての誇り」「異なる価値観への理解」を武器として、世界を舞台に活躍していきたいと思っております。

福岡会場

3月18日(木) 於：西鉄グランドホテル

Program

- 学園代表あいさつ 学校法人立命館総長 長田豊臣
- 立命館アジア太平洋大学に関する報告 APU前学長 坂本和一
- 委員各位からのご提言
- 学生代表のあいさつ 滋野有希子 (APM卒業、日本、九州電力株式会社)
ZHAO Zheng (APM卒業、中国、株式会社大分銀行)
- APU新役職者の紹介
- APU新学長あいさつ APU新学長 モンテ・カセム
- 謝 辞 学校法人立命館理事長 川本八郎
- ご昼食・懇談会



ご出席いただいたアドバイザー・コミッティ・メンバー

広瀬 勝貞 様 大分県知事〔企画文化部長 溝畑 宏 様〕
 浜田 博 様 別府市長〔市長公室長 亀山 勇 様〕
 安藤 昭三 様 株式会社大分銀行 代表取締役会長、大分商工会議所会頭
 (取締役福岡支店長 工藤 正春 様)
 井上 信幸 様 前別府市長
 大野 茂 様 九州電力株式会社 相談役、社団法人九州・山口経済連合会顧問
 小野 浩 様 大分交通株式会社 代表取締役会長、大分県経営者協会会長
 河部 浩幸 様 株式会社九電工 代表取締役社長〔常務取締役 松本 邦夫 様〕
 後藤 達太 様 株式会社西日本銀行 取締役相談役
 小山 榮一 様 エスベック株式会社 会長
 坂井 隼 様 パナソニック コミュニケーションズ株式会社 代表取締役社長〔人
 事・総務グループ人材戦略チーム チームリーダー 鬼塚 博之 様〕
 佐藤諒之助 様 株式会社さとうベネック 取締役会長
 四島 司 様 株式会社福岡シティ銀行 顧問

多田 昭重 様 株式会社西日本新聞社 代表取締役社長〔特別顧問 杉尾 政博 様〕
 田中 浩二 様 九州旅客鉄道株式会社 代表取締役会長〔経営企画部企画国
 際室室長 小野田 照義 様〕
 田中 耕三 様 株式会社山口銀行 相談役
 佃 亮二 様 株式会社福岡銀行 取締役会長
 福島 知克 様 大分瓦斯株式会社 代表取締役社長〔総務部部长 安藤 隆廣 様〕
 古莊 善啓 様 株式会社トキハ 代表取締役会長
 嶺井 政治 様 那覇空港ビルディング株式会社 取締役会長
 山下 寛彦 様 西日本鉄道株式会社 常任顧問〔秘書室長 村田 秀明 様〕
 以上20名 役職は開催時のもの、〔 〕は代理の方

ACの声

小野 浩 様

Voice

大分交通株式会社 代表取締役会長、大分県経営者協会会長

大分県はローカル外交・国際交流が活発です。そのような場にAPU学生が積極的に出てきて、様々な交流を行っています。また学生食堂では、地元の人たちが学生の出身国の料理をたしなむことができます。留学生が地域でなじんでいくのだろうかという当初の心配もなく、むしろ学生自身が国際交流・国際親善を積極的に進めてもらっています。

第一期生は、それぞれの企業で大きく貢献をしていかなければならず、その実績が次の学生受け入れに与える影響も大きく、フォローは大事であると考えます。一期生がどのような成果を上げていくか、ぜひ知りたいですし、支援していきたいと思っています。

卒業生の声

滋野 有希子

Voice

APM卒業、日本、九州電力株式会社

APUでの4年間は、毎日が異文化・多言語との出会いの連続でした。本当につらく厳しかった日英二言語での授業や、夜が明けるまで取り組んだレポート作成。APUは、予習・復習・宿題・レポートが本当に多い大学なのです。ですから一回生の時は、違う大学の人たちをうらやましいと思っていた時期がありました。でも今はAPUで良かったと心から思っています。

九州電力がエネルギー問題で果たす役割や重要性は大きく、APUで学んできたことを十分に発揮できる最高の職場を得ることができたと感じています。

APUで学んだ「日本人としての誇り」と「異なる価値観への理解」を生かして、どのような仕事にも果敢にチャレンジをしていきたいと思っています。

アドバイザー・コミッティの皆様、時には厳しく、そして暖かく私たち卒業生とそれに続く後輩たちに、引き続きご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

[特集2] 第1期生の就職先・第2期生の内定・内々定状況報告

第1期生の就職



立命館アジア太平洋大学は2004年3月、第1期生を社会へ送り出しました。就職につきましては、お陰様をもちまして国内外、幅広い方面で高い評価をいただき、国際学生100%、国内学生92.6%、全体で95%という私たちの予想をはるかに超える実績を残すことができました。厳しい就職状況が続いている中でこれだけの成果を収められましたのも、ひとえにアドバイザー・コミッティの皆様をはじめ、国内外の各界の方々からの多大なご支援の賜物であり、ここにあらためまして深く感謝申し上げます。今後とも、引き続きのご教示、ご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

●主な就職先一覧

アサヒビール(株)*	(株)あおぞら銀行	(株)ジョイフル*	(株)福邦銀行
アデコ(株)*	アクセント(株)	新日本空調(株)	フジオネ・テクノ・ソリューションズ(株)*
アメリカンファミリー生命保険会社	(株)あさひ	スミ・タイ・インターナショナル会社*	(株)船井総合研究所
(株)イトーヨーカ堂	(株)エイチ・アイ・エス*	住友ゴム工業(株)*	(株)ベスト電器
(株)INAX	SMBCフレンド証券(株)	住友電装(株)(海外法人含)*	別府市役所
(株)大分銀行*	NSKマイクロプレシジョン(株)*	住友電装コンピュータシステム(株)*	(株)ペルーナ
オリックス(株)*	(株)オーイーシー*	成和産業(株)	(株)豊和銀行
鐘淵化学工業(株)*	(株)オーガス*	(株)千趣会	(株)北洋銀行
(株)川島織物*	大分県警察本部	(株)セントラルサービスシステム	マースク(株)
キッコーマン(株)*	大分みらい信用金庫	(株)そごう	マブチモーター(株)
九州電力(株)	大阪市役所	ソニーサプライチェーンソリューション(株)	明治安田生命相互会社
(株)きんでん	(株)上組	ソフトバンクBB(株)	ヤマハオートセンター(株)
(株)熊谷組	川崎汽船(株)	大丸エナウィン(株)	ヤンセンファーマ(株)
(株)さとうベネック	近畿日本ツーリスト(株)	(財)中小企業国際人材育成事業団(Imm Japan)*	陸上自衛隊
三洋電機(株)*	グッドウィルグループ(株)	デル(株)大連*	(株)リクルートスタッフィング
(株)滋賀銀行	(株)公文教育研究会*	DENSO International Thailand Co., Ltd.*	(株)ロイヤルパークホテルズアンズリゾート
シャープ(株)*	グラクソ・スミスクライン(株)	東急エアカーゴ(株)	(株)ロッテリア
ソニー(株)	クラリオン(株)	Toyota Motor Manufacturing Canada Inc.*	YKK-AP(株)
東レ(株)*	(株)クレディセゾン	(株)南都銀行	
ニチコン(株)*	(株)光波*	日興コーディアル証券(株)	
日産自動車(株)*	コナミスポーツ(株)	日本BMインダストリアルソリューションズ(株)	
日本写真印刷(株)	佐川印刷(株)	(株)日本デジタル研究所	
日本生命保険相互会社	(株)サニックス	日本電産リード(株)*	
日本通運(株)	Sanko Fastem Thailand Ltd.*	日本トムソン(株)	
日本貿易振興機構 (JETRO)*	(株)三社電機製作所*	日本放送協会(NHK)	
(株)日立製作所*	サンスター(株)	(株)日本旅行*	
富士ゼロックス(株)	GEキャピタル 大連*	(株)ノエビア	
(株)堀場製作所	(株)CAC Pacific*	野村證券(株)	
松下電器産業(株)	CKD(株)	パナソニックインダストリー天津有限公司*	
三井住友海上火災保険(株)海外法人*	九州旅客鉄道(株)ジョイロード	ハリソン東芝ライティング(株)	
(株)山下設計	(株)ジェイアール東日本商事	日立機電工業(株)*	
ユニ・チャーム(株)	(株)JTB北海道	広島県立世羅高等学校*	
リンナイ(株)	静岡県労働金庫	ヒロセ電機(株)	
ローム(株)*	JALインフォテック(株)	(株)ファーストリテイリング	
(以上、APUアドバイザー・コミッティ企業様)	(株)JALナビア福岡	(株)福岡ドーム*	

注1：2004年3月31日現在 注2：学生より報告があったもの 注3：*は、国際学生の就職企業 注4：1つの企業に複数の就職者が多数あります。

A report regarding employment results

第2期生の就職内定・内々定状況



今年度、第2期生の就職活動が本格化しております。昨年同様、6月末現在での内定・内々定率は64%、大手・上場率は80%に達し、予想以上に順調なスタートを切りました。アドバイザー・コミッティ委員の皆様には様々なご支援、大所高所からの貴重なご意見を頂戴し、そのご意見を生かした特色ある教育と独自の就職支援システムを確立いたしました。これらのシステムは、多くのグローバル企業から高いご評価をいただいております。

●主な就職内定・内々定先一覧 (2004年5月31日現在)

アイシン精機(株)	三洋電機(株)	凸版印刷(株)	古河オートモーティブパーツ(株)
アサヒビール(株)	(株)ジェイティービー	(株)西日本新聞社	本田技研工業(株)
アデコ(株)	(株)滋賀銀行	日興コーディアル証券(株)	(株)毎日新聞社
アメリカンファミリー生命保険会社	シキボウ(株)	日産自動車(株)	マブチモーター(株)
(株)伊予銀行	スタンレー電気(株)	日本生命保険相互会社	三井住友海上火災保険(株)タイ
(株)エイチ・アイ・エス	住友信託銀行(株)	日本電産リード(株)	(株)三井住友銀行
SMBCフレンド証券(株)	住友ゴム工業(株)	日本旅行(株)	三井化学(株)
(株)大分銀行	住友電装(株)	野村證券(株)	三菱化学(株)
オムロン(株)	積水ハウス(株)	バイエル薬品(株)	三菱証券(株)
オリックス(株)	ソニー(株)	浜松ホトニクス(株)	(株)村田製作所
オリックス・オート・リース(株)	ソフトバンクBB(株)	日立機電工業(株)	(株)明電舎
オリックス信託銀行(株)	タイ住友商事会社	日立建機(株)	矢崎総業(株)
鐘淵化学工業(株)	ダイハツ工業(株)	(株)日立製作所	ヤンセンフォーマ(株)
関西ペイント(株)	ダイヤモンドリース(株)	広島信用金庫	UFJ銀行上海支店
九州電力(株)	独立行政法人鉄道建設・運輸施設・整備支援機構	ヒロセ電機(株)	楽天(株)
(株)公文教育研究会	東急建設(株)	(株)ファミリーマート	(株)リクルート
小松フォークリフト(株)	東陶機器(株)	(株)ファンケル	(株)レオパレス21
五洋建設(株)	東レ(株)	富士通(株)	YKK(株)ロシア



[特集3] 九州発アジア人材育成フォーラム

6月6日、朝日新聞創刊125周年記念事業の一環で、「アジア社会へ貢献できる人材を目指して 九州発アジア人材育成フォーラム」が福岡市内ソラリア西鉄ホテルで開催され、約160名の方が参加しました。このフォーラムに、モンテ・カセムAPU学長がパネラーとして参加しました。



冒頭発言でカセム学長は、「日本からは、経済交流や開発援助がアジアの国々に対して行われている。しかし、アジア諸国の人々の心の中に入っていない気がする。アジアの数多くの人々の心の中に日本のプレゼンスを高める努力を、日本の大学は行わなければならない。日本の高等教育の留学生政策は、彼らを日本で教育して母国のために働くように帰そうという、高い目標を持っている。そのような高い目標を持って、取り組んでいるにもかかわらず留学生たちが必ずしも親日的にならない。これはなぜかということ私たちが自らに問うことによって、今後の日本の教育政策を考えるべきだ」と意見を述べました。

また、梶山千里九州大学総長からは「留学生を生かす流れを

プログラム

【主催者あいさつ】

朝日新聞総合研究本部主任研究員 荻野博司氏

【基調講演】

「中国から見た日本」朝日新聞編集委員 加藤千洋氏

【パネルディスカッション】

「アジア社会に貢献できる人材」

コーディネーター：朝日新聞総合研究本部 荻野博司氏

パネリスト：立命館アジア太平洋大学学長 モンテ・カセム

九州大学総長 梶山千里氏

九州旅客鉄道株式会社 取締役鉄道事業本部営業部長 唐池恒二氏

日本経済新聞社主催大学シンポジウムにカセム学長が参加



Special Report 3: Forum of Asian Talent Cultivation in Kyushyu

つくり、世界の中でアジアとは何かを考える必要がある」、また唐池恒二九州旅客鉄道株式会社取締役からは「誇りを持ち、日々の技術向上に努め、冒険心・情熱が必要」とパネリストからそれぞれ意見が述べられました。

続いてのパネルディスカッションでは「アジアと九州」、「人材像や育成方法」について、それぞれ意見交換が行われました。

「アジアと九州」についてカセム学長からは、「堅苦しい使命感だけではなく、ロマンを一緒に実現することが信頼関係の構築につながる。そして人材育成を真のものにするには、多様性を受け入れる基盤をもち、変化に早く対応できる体制が必要である」との意見を述べました。

また「人材像や人材育成」については、「実行することによって、いろいろな新しい知恵が生まれてくる。それは、活動できる“場”を私たちが作って、創造性や新しいニーズに応える潜在的なものを引き出せることにかかってくる。このことは大学の中だけではなく、地域や企業、行政の方々との知恵を出し合い、目標を定めることで実行できることだと考えている」との発言がなされました。



日本経済新聞社の西部印刷40周年を記念したシンポジウム「変わる大学～産学連携のあり方を求めて」が、6月29日に、ホテルニューオータニ博多で開催され、モンテ・カセム APU学長がパネラーとして参加しました。シンポジウムでは、まず廣瀬弥生東京大学産学連携ディレクティングマネジャーが基調講演を行い、その後、パネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションには、谷川徹九州大学産学連携センター副センター長、久保田弘熊本大学教授、高本陽一株式会社テムザック社長とともに、カセム学長が参加し、滝順

一日本経済新聞社編集局科学技術部長の司会により、産学連携をめぐる意見交換を行いました。

ディスカッションのテーマは、国立大学の法人化で産学連携はどう変わったか、また産学連携や大学発ベンチャーは日本の産業を変える起爆剤となるか、また九州地域とアジア諸国との協力のあり方についてなど多岐にわたり、活発な意見交換がされました。

その中でカセム学長からは、産学連携において、大学は大学らしさを失うべきではなく、むしろ大学の持つ中立性を生かして臨むべきであること、産学連携を進める際には単なる

目先の開発のみに捉われずにビジョンを持つことが重要であり、そのことが大学・企業双方の活発な創造性を引き出すことにつながることで、今後もっと国際的なリエゾン活動が進められるべきであり、APUの持つ国際的環境の中で育った人材が、その担い手となることを期待していること、等の発言がされました。



Report

APU第一期生卒業式

APU'S FIRST ROUND OF GRADUATION CEREMONY

3月19日、APUの卒業式が別府市のビーコンプラザで行われました。

今回の卒業式は、2000年4月に開学したAPUにとって初めての本格的な卒業式となり、学部学生483名と大学院博士前期課程2名(うち国際学生174名、26カ国・地域)が卒業しました。

式では、VADHANAKOVINT Pichayaさん(アジア太平洋学部)ら3人に坂本和一前学長から学位記が授与された後、坂本前学長から「白紙の状態だった4年前、勇気を持って入学した皆さんに感謝をしたい。APUで能力を磨いた皆さんが、深い洞察力と果敢な行動で新しい世界を切り開くと確信している」と挨拶がありました。

長田豊臣総長、広瀬勝貞大分県知事に挨拶を頂いたあと、卒業生代表として竹林誠悟さん(アジア太平洋学部)、DIZON Mary Jane さん(アジア太平洋研究科博士前期課程)が挨拶しました。竹林さんは、「APU学生を暖かく迎えて下さった大分県・別府市の地域の方々、教職員の皆さん、そして会場にいる全員の方々に感謝申し上げます。APUのモットーであるWE



CAN DO IT! を心に刻んで活躍していきたい」と抱負を述べました。

その後学生は一人ひとり壇上へ上がり、坂本前学長から卒業記念品を受け取り、教職員と握手を交わしました。

卒業式には、卒業生以外にも約1,300名が参列し、新たな門出を祝いました。



千 玄室先生に名誉博士号を贈呈

HONORARY DOCTORATE PRESENTED TO SEN GENSHITSU

4月2日、ミレニアムホールで名誉博士号贈呈式が開催され、茶道裏千家前家元千玄室（第15代 千宗室）先生に、立命館アジア太平洋大学名誉博士号が贈呈されました。千先生は、アドバイザー・コミッティ委員として本学の開学と発展にご尽力賜っております。

式ではカセム学長から千先生のご紹介が行われたあと、学位記が授与され、肩章が千先生の肩にかけられました。

千先生には、APUの客員教授に就任いただいています。また、キャンパス内に茶室「和心庵」を寄贈いただき、特に国際学生が日本文化に触れる貴重な機会を賜るなど、本学に多大なご支援・ご協力をいただいています。



和心庵での授業



Topics on APU

2003年世界学生サミット (シンガポール国立大学)

2003年12月15日から19日にかけて、「2003年世界学生サミット (The World Student Summit 2003)」が開催されました。このサミットは、2002年10月にAPUで開催された「2002年世界学生サミット」に続いてシンガポール国立大学 (APU・立命館大学の協定大学) の主催によって開催されたものです。



テーマは、「地球上の問題について青年が行動する新しい戦略をつくろう」で、世界中100の大学から、300名以上の代表が参加したサミットとなりました。APUからは、以下の4名が参加しました。



泉 美帆 (APS、4回生)
横本 喜久美 (APS、3回生)
PERERA, Sajitha Chamara (APM、4回生)
NYITRAI Peter Gellert (APM、3回生)

APU-MBA in Fukuoka 公開講座

2003年4月に開設したAPU経営大学院 (MBA) では、現在、世界17カ国・地域出身の43名が学んでいます。

近年、国際水準の経営管理・分析、問題解決能力を証明する資格として注目されているMBA (Master of Business Administration) についての公開講座を、毎月福岡市天神で開催しています。

今年度は、これまで「米国人と九州人が語るMBA教育現場」「個人と企業の構想力を伸ばすMOT (技術経営)」「最近の日本の対中国投資戦略」「日本の経営・アメリカの経営」をテーマに、第1回から第4回までの講座が行われ、のべ100名以上の方が参加されました。今後は右記のような予定になっています。

講座では、講師にAPU経営大学院専任教授などを迎えた講義が行われ、また講座終了後に講師・MBAコース在籍国際学生との交流懇親会も開催しています。

【第5回】 9月10日 (金)

講演テーマ「起業家精神とビジネス・スクールー起業家は育成可能か」

講師 石田 英夫

【第6回】 10月 8日 (金)

講演テーマ「研究者・技術者の評価とモチベーション」

講師 福谷 正信

【第7回】 11月12日 (金)

講演テーマ「技術経営 (MOT) で「死の谷」を超える
—半導体・液晶ビジネスの競争力強化のために—

講師 中田 行彦

【第8回】 12月10日 (金)

講演テーマ「日産ゴーン革命がわかる経営分析入門」

講師 牧田 正裕

*会場については、別途お問い合わせ下さい。

開催時間はいずれも18:30~20:00を予定しています。

*講座受講のお問合せ・ご予約先:

立命館アジア太平洋大学 アドミッションズ・オフィス国際

Tel: 0977-78-1119 Email: apugrad@apu.ac.jp

APU大学院URL: <http://www.apu.ac.jp/graduate>

進む地域交流

■ APU講座@臼杵

3月14日、APUと交流協定を締結している臼杵市で「APU講座@臼杵」が開催されました。会場には、臼杵市役所職員や商工会議所・観光情報協会の方など、50名以上が参加しました。

後藤國利臼杵市長の開会あいさつ、調査経過報告に続き、3組のAPU学生から、「歴史的建造物の防災対策」「臼杵における景観の改善」「観光・経済を活性化するコミュニティビジネス」について研究発表がありました。

発表のあとの質疑応答では、参加者から「臼杵の景観で、城山への視点を重視する考えは新鮮だった」「データを充分収集して、一緒に議論をしていきたい」など、活発な意見が出されました。



■ 別府市まちづくり連携交流協定

3月30日、別府市役所において、別府市まちづくり連携交流協定の調印式が開催されました。協定は、別府市、別府商工会議所と別府市内の大学であるAPU、別府大学、溝部学園の間で結ばれたものです。

今回の協定は、別府市制80周年を契機として、別府市、別府商工会議所と各大学がそれぞれの特徴を活かして、地域発展への取り組みをいっそう進めることを目的としたものです。今後、連絡会議などを開催し、具体的な事業を進めていくこととなります。



■ 蒲江町友好交流協定調印式

4月19日には、蒲江町との友好交流協定が広瀬勝貞大分県知事立ち合いのもと結ばれました。国際学生3名が国際文化支援アドバイザーとして任命され、小・中学生に英語の指導を行うほか、ホームステイや町のイベントへの参加を通して交流を進めることとなります。

早速5月22日には、蒲江町で行われた「マンボウ・フェスティバル」に参加し、APUや出身国についてアピールを行いました。

APUが交流協定を結んだ大分県内の自治体は、三重町、鶴見町、臼杵市、別府市、蒲江町の5つとなりました。



第7回トップ講演会「キヤノンの経営戦略」



大分県出身で、本学のアドバイザー・コミッティにもご就任いただいているキヤノン株式会社の御手洗富士夫代表取締役社長を講師にお迎えし

て、第7回トップ講演会「キヤノンの経営戦略」が、6月16日ミレニアムホールで開催され、約1,000人の学生と市民の方が聴講しました。

御手洗氏は、「グローバル化・多角化」を基本戦略に、世界的企業に発展したキヤノンの経営法について講演され、最後にAPU学生へ「これからは自分の生まれ育った国で培った文化観・価値観を基本に、他国の文化観・価値観を知識や教養として持っている‘真の国際人’が求められる時代。そういう意味ではAPUは他国を学ぶことができるチャンスに非常に恵まれている。APUで学び、21世紀を担う

リーダーとなる一流の国際人になってください」とメッセージを述べられました。



「APUドリームインキュベーションプロジェクト」が開催される

6月9日、APUの登録団体である別府まちづくり推進委員会が主催する「APUドリームインキュベーションプロジェクト」の第一次選考会と起業家講演会が開催されました。このプロジェクトは、夢に向かって行動するAPU学生を増やし応援するために、地元企業や行政機関、そして企業家の方々の協力を得て、学生に『出会い』と『主体的な行動』、『スキルアップ』の機会を提供するものです。

当日は、13組の学生によるユニークな社会事業プランが発表され、参加学生、審査員から「将来について考えるいい機会になった」「久しぶりに熱い若者に会えた」などの感想が寄せられました。

また、6月26日には、YOSAKOIソーラン祭り専務理事長谷川岳氏の講演会と一次選考会で選ばれた上位6組による最終発表会が開催されました。選考の結果、「未来を創る



情報誌「一不登校へのアプローチ」でプレゼンテーションを行った奥田牧子さん（APS、3年生）が最優秀事業に選ばれました。

立命館アジア太平洋大学 国・地域別の学生数

(2004年5月1日付)

	国・地域	学部	大学院	学部・大学院合計	
アジア	韓国	443	1	444	
	中国	266	21	287	
	台湾	142	2	144	
	ベトナム	105	15	120	
	インドネシア	97	6	103	
	タイ	83	3	86	
	スリランカ	59	0	59	
	インド	41	9	50	
	マレーシア	23	4	27	
	フィリピン	16	7	23	
	ネパール	19	0	19	
	モンゴル	14	5	19	
	ラオス	14	1	15	
	パキスタン	15	0	15	
	ミャンマー	8	7	15	
	バングラデシュ	10	4	14	
	シンガポール	8	3	11	
	カンボジア	7	0	7	
	ウズベキスタン	4	0	4	
	イラン	2	1	3	
	ヨルダン	2	1	3	
	グルジア	1	0	1	
	シリア	1	0	1	
	トルコ	1	0	1	
	小計	1,381	90	1,471	
	アフリカ	ケニア	23	1	24
		ガーナ	12	0	12
ウガンダ		10	0	10	
ナイジェリア		10	0	10	
カメルーン		4	0	4	
マリ		3	0	3	
ザンビア		2	1	3	
エチオピア		2	0	2	
マラウイ		2	0	2	
スーダン		1	1	2	
コートジボワール		1	0	1	
ジブチ		1	0	1	
エジプト		1	0	1	
マダガスカル		1	0	1	
モロッコ		1	0	1	
ジンバブエ		1	0	1	
小計		75	3	78	

	国・地域	学部	大学院	学部・大学院合計	
北・南アメリカ	アメリカ合衆国	29	5	34	
	カナダ	10	1	11	
	メキシコ	1	4	5	
	ポリビア	2	0	2	
	エクアドル	2	0	2	
	ペルー	1	0	1	
	ブラジル	1	0	1	
	コスタリカ	1	0	1	
	ジャマイカ	1	0	1	
	小計	48	10	58	
	オセアニア	オーストラリア	12	1	13
		バプアニューギニア	6	1	7
		ニュージーランド	4	0	4
サモア		3	1	4	
トンガ		0	2	2	
パラオ		1	0	1	
小計		26	5	31	
ヨーロッパ	リトアニア	14	0	14	
	ブルガリア	10	1	11	
	ハンガリー	8	0	8	
	エストニア	7	0	7	
	イギリス	7	0	7	
	ロシア連邦	4	0	4	
	フィンランド	3	0	3	
	ルーマニア	2	1	3	
	ウクライナ	3	0	3	
	ドイツ	2	0	2	
	クロアチア	1	0	1	
	チェコ	1	0	1	
	オランダ	1	0	1	
	ポーランド	1	0	1	
	スロバキア	1	0	1	
	ラトビア	1	0	1	
モルドバ	0	1	1		
小計	66	3	69		
国際学生(留学生)合計		1,596	111	1,707	
国内学生合計		2,343	12	2,355	
APU学生総計		3,939	123	4,062	

注) 国際学生とは、在留資格が「留学」である学生をいう。
国内学生には、在留資格が「留学」ではない在日外国人を含む。





APU 立命館アジア太平洋大学

〒874-8577 大分県別府市十文字原1-1 TEL.0977-78-1114 <http://www.apu.ac.jp/>